**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　　　　　　　　感謝感謝感謝**

**お名前：　　　　　　　　　柴崎尚世**

(下記より本文をご記入ください)

私の中の平和統一・・

まだ、成されてないかも。

私の中の平和統一・・

いつ、成されるだろう？

約60年前の私の家では、私が物心ついた頃には、毎日食卓には朝鮮漬け(キムチ)が出されていた。また、1週間に1〜2回は、家族やお得意様と駅前の焼肉屋へ食べに行き、時には鍋を持ってテグタンスープを買いに行っていた。その当時、父はよく、「ここの店主は、釜山出身なんだけど、朝総聯なんだよな」と、小さな私にはわからないことを言っていた。

その当時の私は、一つの国が南と北に分かれていることなど知る由もなかった。

父は、韓国光州で産まれ、3歳から7歳までは、当時満州の奉天(現瀋陽)で生活し、7歳からは学校があるということで終戦までの15歳まで、京城(現ソウル)に住んでいた引き揚げである。

2003年9月、父が73歳で霊界へ旅立つ直前にソウルでどこに住んでいたかがわかった。父にどこに住んでいたのか聞いたら、西大門に住んでいたという。そこで、何か聞こえてこなかったかきいたら、「日本の恥部になるので、話してこなかった。初めて話すが、時々風に乗って、拷問の声が聞こえていた。その声が嫌だった」と。その直後「散髪に行きたい、今日でないと駄目だ」と言うのですぐに床屋へ連れて行き、サッパリして帰ってきたら、次の日、父は脳出血で倒れ、霊界へと旅立った。父は真実を話したから、安心して旅立った？

父が聖和する7年前、定住外国人地方参政権付与に関しての大会で私が壇上にいた時、突然実家の会社が黒字倒産の憂き目にあった。これは、日本の過去の精算問題、日韓問題、在日問題と関係があるのでは？と、私は直感した。直後、両親が知人から紹介されたお寺にお伺いに行ったら、「過去全ての精算の時だ」と言われた。戦前の韓国に住んでいた時、父にはいい思い出も沢山あったけど、そこに日本人が住んだこと自体が罪なんだと受け止めた。また、私は、共和国では食べられない人がいる。共和国以上の生活をしてはいけないんだと思った。こんな大変な生活でも、夫や子どもたち、父や母、親族、友達、また、コミュニティによって、涙と笑いで助けあったから、心は折れなかった。その当時、2歳で幼児洗礼を受けていた85歳になる大叔母が突然父に会いにきた。そこで、しきりに両手を合わせて「神様に感謝感謝感謝。宗ちゃん(父)の家族に会えて感謝感謝感謝。長く生かしてくれて感謝感謝感謝」と話す。私にはその「感謝」という言葉がとてもとっても新鮮に感じた。

2000年の頃、在日系団体の女性幹部が、「何故、そうやって南北統一の為に日本人が活動するの？それは思想があるから？」と質問してきたことがある。「はい、文鮮明先生、韓鶴子婦人の思想が大きいですね」と答えた。

2004年、父の聖和の翌年、平和統一聯合がご夫妻によって創設された。「過ぎたる世紀、在日同胞は歴史の被害者でありました。しかし今後在日同胞は環太平洋時代において歴史の主人公であり、先駆者となるのです」。その日から、私の心にはっきりとした思想、韓半島平和統一への道ができた。在日の友達と仕事もしたし、遊びへも行き、大会やツアーも参加し、セミナーも一緒に参加した。ファミレスや同じ部屋で徹夜で語らい、学んだり、食べたり、サウナ入ったり、歌ったり、踊ったり・・。しかし、時には、他団体責任者に怒られたり、多くの人と知り合いになってくると、かえって団体責任者に羊泥棒と言われもした。様々な苦労もあったが、互いにわかりあおうとした。希望をもって歩んできたが、年月が経ち、多くの在日が統一を見ずに霊界へ旅立っていった悲しみがある。

今、在日とはわかりあうことがあっても、ニューカマーとは、何年仕事を一緒にしても、まだまだ情の持ち方、習慣、文化の違いで理解しえないことが多い。最近、在韓日本婦人の苦労を直接きいて、理解するんじゃなくて、まずはそのまま受けいれよう。そして何よりも、プラスでもマイナスでも、全てにおいて、感謝感謝感謝、感謝感謝感謝、感謝感謝感謝。それが、広がっていった時、願いが果たせる、そうだ、それだ。私に心が遊ばなければ、感謝感謝感謝。

平和統一聯合創設者の韓鶴子総裁が、「私の一生の目的はただ一つです。いかにすれば昨日よりもきょうをより一層感謝する心で生きていくかということです。きょう一日、昨日よりも感謝し、あすはきょうよりも感謝しながら生きていくために努力してきました。毎日感謝する心をもつことが私の人生の目標です。」と、語られているが、韓鶴子総裁のメッセージのように、「感謝」する心が常に自分の中に沸き起こってきた時、私の中には平和統一が成せるのでしょう。

感謝感謝感謝。

私の中の平和統一、万歳。